

環境白書の発刊にあたって



1月1日に発生しました令和6年能登半島地震による被害を受け、多くの方がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、すべての被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、昨年7月に国際連合事務総長が「地球沸騰化の時代」と発言されたように、昨年は観測史上最も暑い年となりました。また、昨今のロシアによるウクライナへの軍事侵攻以降、世界のエネルギー情勢は混迷を深めており、電気・都市ガス・ガソリン等の価格上昇により、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

他方、アラブ首長国連邦（UAE）にて開催された国連気候変動枠組条約締約国会議（COP28）では、化石燃料からの転換について合意され、2030年頃までのこの10年に行動を加速させることとなりました。

このような社会情勢の中、京都府においては、令和5年4月からスタートした新しい京都府総合計画において、計画の柱となる8つのビジョンの1つに「共生による環境先進地・京都の実現」を掲げました。その中で2030年度に、2013年度比で温室効果ガス排出量の削減率を46%以上とし、府内の再エネ発電電力量の割合を25%以上とする目標を定めており、「脱炭素社会の実現に向けた実行力のある温室効果ガス削減の取組の推進」をはじめとする各分野での取組を進めているところです。

また多様な主体の連携による生物多様性の保全と継承、自然環境の保全と創出に向けて、京都市とともに、「きょうと生物多様性センター」を開設し、生物多様性の保全に向けた取組の一層の推進を図っているところです。その他にも、大学生や福祉団体と連携した期限切れ間近の防災食を活用したアップサイクル事業の実施等、食品ロス問題の意識醸成や、食品ロス削減の取組を推進しています。

今後も、長い歴史の中で紡ぎ受け継がれてきたまちなみや景観、自然環境、生活環境を保全・創出するなど、人々の暮らしと自然が共生する京都を実現するため、更に取り組を拡大・加速してまいります。

この白書では、「京都府生物多様性地域戦略」をはじめ、京都府の環境施策の状況等を広く御紹介しております。多くの皆様に御活用いただき、いま一度、環境の大切さについて考え、環境を守り育てる取組を推進していただく際のお役に立てば幸いです。

令和6年2月

京都府知事 西脇隆俊